

二〇二四年度 三田学園中学校入学試験問題

前期B日程 国語

〈注意〉各問題の解答はすべて解答用紙に書き入れなさい。

※出題の都合上、漢字にふりがなをふる、漢字をひらがなにするなど、本文の一部に改変を行っています。

※特に指示のない限り、字数制限のある問題では句読点や記号も一字として数えます。

受験番号	
------	--

一、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

【第一段落】

2016年、イギリスのEU（欧州連合）離脱をめぐる国民投票や、トランプ氏が勝利した米大統領選の選挙運動の中でウソが堂々とまかり通り、それを多くの人が信じるという、驚くべき事態が発生した。

あ、EU離脱の国民投票では、投票前、離脱派はイギリスが加盟国としてEUに対して週3億5000万ポンド（約480億円）出していると主張していた。ところが、離脱派をリードしてきた英国独立党のトップは投票後にテレビ番組であっさりと間違っていたと認めたのだ。アメリカ大統領選挙の方はさらに悲惨な状態だ。10章の終わりで取り上げたように、「ローマ法王がトランプ候補を支持」などという偽ニュースがSNSで大拡散し、メディアが繰り返し否定しても、逆に否定情報の方がかき消されてしまった。

トランプ氏も自身のツイッターなどで「オバマ氏はアメリカ生まれでなく、本当は大統領になれない」といったウソの主張を繰り返し、これに喝采する有権者がかなりいた。

情報は操作されたり隠されたりして、知らぬ間にある方向に誘導されることを一章で書いた。それがいまや、^①ウソがむき出しで社会に登場し、それが受け入れられてしまう時代になってきたとも言える。

世界最大の英語辞典を出しているイギリスのオックスフォード大学出版局が、2016年にもっとも注目を集めた言葉として選んだのは、《POST-TRUTH》（ポスト真実＝真実以後の意）。「客観的事実よりも、感情や個人的考えへの訴えが影響を持つようになった状況」を意味する。

いまや事実の力が低下し、「世論」を作りあげる力がなくなってきている。ぼくらは、事実かどうか以前に、信じたい情報、分かりやすい物語、に飛びついてしまうようになってしまったようだ。

【第二段落】

大きな事件が起きるといろいろな情報が飛び交う。興味のおもむくままに、いろいろな情報を集める。情報を集めることは悪いことではない。い受信するだけでは「知る」ことにはならない。混乱するだけだ。自分で冷静に考えて選択をする必要がある。^②情報を知識にまで高めるためには自分で考えなければならぬ。

まず、自分は憤りなどの感情に任せて情報を選んでいないかを確認してみよう。感情によって頭に入れておくべき情報を遮断していないかを、ぼくらは常に気にしておかなければならない。

次に「ぼくはこういう考え方が正しい」という信念を持ったときに、異なった意見に耳を傾けるのを避けていないかも確認しよう。ぜひ実行してほしいのは、自分が思っているのとは違う意見にも耳を傾けることだ。意見というのは、どちらかが完全に正しくてどちらかが完全に間違っ

いる、というものではない。それぞれにそれぞれなりの言い分があるはずだ。いろいろな考え方に触れる中で、より考える力をつけることになるだろう。

いまや情報は洪水のように襲ってくる。それが事実かどうかウソでないかも、まず確認しなければならぬ。それを消化する時間が足りず、事実の検証をしきれないうちに次の情報が……なんていうこともままある。踏みとどまって、じっくりと考える時間を持つこともぼくらには必要だ。

ニュースの読み方の例もひとつあげておこう。たとえば自分がニュースを読んだとする。その記事の根柢は何なのか、記事を書いたジャーナリストは自分の目で見たことを書いたのか引用したのか、引用したとすればその情報源は何だったのかなどを検討してみよう。その新聞、ニュースサイト、SNSは信用できるものか。うー、一歩進んで、書いたジャーナリストは信用できるかまで調べられるのなら調べてみよう。自分なりの基準や尺度ができて、それが更新されていくはずだ。

一つのメディアに依存すると一方的見方にかたよる心配もある。ふだんと違うメディアものでいてみることをすすめる。ネットで情報を得たとすれば、テレビや新聞で再チェックしたり、友だちの意見を聞いてみたり、もっと掘り下げたければ図書館で本にあたるのも手だ。

「3つの情報源にあたってみよう。2つとも同じことを言っていれば、情報は正しいかもしれない。3つが同じ方向なら、まず間違いはない」と、アメリカにいた時にお世話になった歴史学の教授が言ったものだ。なるほどと思った。ぼくらそれぞれなりの「事実確認方程式」を作っておくといい。

【第三段落】

国民みんなが経済的に「まあまあ」だった頃は、誰もが「快適な今の状態が変わらないでほしい」「平和が続いてほしい」「戦争はいやだ」という気持ちがあるの体に染みついてた。ふんわりとだが「全員の一一致した意見」があった。

今は長い景気停滞で、豊かな人がいる一方で、貧しい人びとが増えている。「現状のままでは希望が持てない」という人が増えているのだ。社会をどう改善していったらいいかを冷静に考えようとする人がいる一方で、感情的にストレスをためている人も増加してきている。

③そこにつけこんでポピュリズム(大衆迎合主義)が頭をもたげて来ている。特にアメリカやヨーロッパなどでは目に見えて変化してきている。人々の不満をすくい上げて、今ある政治を批判する。ポピュリストの政治家は、その時その時で人々の耳に心地よい発言、情報を流し、支持を得る。大衆の気分次第で政策が変わるので、一貫性がなく、過去の発言とつじつまが合わなくても気にしない。

アメリカではグローバル化で職を失った人々の怒り、ヨーロッパでは中東などから移民が大量に流入したことへの不満がその根っこにある。「ポスト真実」が受け入れられた背景にもそういう鬱屈した気分があるのだ。

日本でも所得格差が広がる中でストレスはたまっている。そういうときに外国の脅威を強調されたら「日本、負けてなるか」という危ないナショナリズムも頭をもたげてくることがある。

そうした気分は、ぼくらの中にすでにあるのに無意識で気づかないでいる場合が多い。え、ちょっと煽あおられると簡単になびいてしまう。自分たちの気分気づくことが冷静に考える事への第一歩だ。その気分、空気をぼくらは「世論」²と呼んだりする。

「世論」と聞くと、何が思い浮かぶだろうか？「世論調査」のイメージが強いよね。ぼくらみんなの意見、考え、気持ち、気分など……。でも、もともとはもっと深い意味もあったんだ。

「世論」には「よろん」と「せろん」のふた通りの読み方がある。かつては「よろん」は「輿論」と書いており、明確な違いがあった。「世論」が世間一般いっぱんの感情なら、「輿論」は正確な事実をもとに議論を重ねて出来上がった「社会的合意」だ。それが漢字表記の問題で、一つの言葉になり、区別されにくくなってしまった。

メディア史研究の第一人者、京都大学の佐藤卓己教授は、今は、気分しか測っていない世論調査にはかり目がいって、情緒じょうちゆう的な意見が正当な意見かのように重視されていると指摘。常に、それが「輿論」なのか「世論」なのかを見分けることを勧めている（朝日新聞2010年8月14日）。感情的に反応しているだけでは何も解決しない。下手をすると「世論」は制御せいぎよできない「怪獣B」のようにになってしまうかもしれない。そうならないためには、表面的な情報に惑まどわされずに冷静に読み解く力をつけることが必要だ。ぼくら一人ひとりの反応が「世論」になるのだし、世論は情報によって操作されやすい。その世論が、社会を動かすパワーも持っていてしまっているのだから。

（三浦準司『人間はだまされる』より）

注1 ポピュリズム……大衆に気に入れようとする態度。

注2 ナショナリズム……国家や民族の統一・独立・繁栄はんえいを目ざす思想や運動。

注3 情緒じょうちゆう的な……恐怖・驚き・怒り・悲しみ・喜びなどの感情的な。

問一 あ え に入る語をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

ア だから イ なぜなら ウ でも エ 例えば オ さらに

問二 ———— 部①「ウソがむき出して社会に登場し、それが受け入れられてしまう時代になってきたとも言える」とありますが、そのような時代になったのはなぜですか。解答らんに合うように四十五字以内でぬき出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問三 ———— 部②「情報を知識にまで高める」とありますが、具体的にどのようにすればよいですか。説明しなさい。

問四

——部③「そこ」の指示内容を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 社会の分断 イ 社会の透明化
ウ 社会の統合 エ 社会の国際化

問五

~~~~部A「洪水」は「情報」を、B「怪獣」は「世論」をたとえた言葉です。それぞれどのような意味で使われていますか。自分の言葉で説明しなさい。

## 問六

——部1〜4の「世論」のなかで、他の三つと異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

## 問七

本文の内容として適当なものには「○」、適当でないものには「×」で答えなさい。

- ア ウソの情報にだまされなかったためにも、誰もが三つの情報源に当たってから判断するというやり方をするのがいい。  
イ 事実かどうかよりも、自分が信じたい情報をほしがるようになったのは、現状に希望が持てない人が増えたからだ。  
ウ 人々の支持を得なくては当選できない政治家は、人々の支持を得るために当然のようにウソをつくようになってしまった。  
エ 個人の意見を聞くことは政治にとって大切だが、その意見を聞きすぎると一貫性のない政治になってしまう。  
オ 人間の気分や感情は与えられる情報によって簡単に操作されてしまうので、とにかく冷静に考えることが必要だ。

## 問八

【第一段落】〜【第三段落】の三つの段落の題名として最も適当なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分なりの確認方程式を作ろう      イ ぼくたちの世論が……  
ウ アメリカ対ヨーロッパ      エ 事実が感情に押し流される

二、小さいころに両親が離婚し、一緒に暮らしていた「母（育子）」も亡くした「ぼく（大地）」は、中学から「伯母さん」と共に暮らしている。次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

<sup>注1</sup> 定期考査期間とはちがいで、保護者面談の週でも部活は行われる。生徒は自分が割り振られた時間だけ抜け、面談が終われば活動に戻る。

でも今日は月曜なので、サッカー部の場合、練習そのものがオフ。だから伯母さんと二人、歩いて帰ることになった。

伯母さんが駅前の大型スーパーで買物でもしてってくれればいいと思ったが、伯母さんはしてってくれなかった。といって、ぼく自身がどこかへ寄ると言いだすこともできない。

みつば高校からみつば南団地まで。気まずい二十分だった。伯母さんが右を見れば、ぼくは左を見る。伯母さんが空を見れば、ぼくは路面を見る。そんなふうに歩いた。

話は家に帰ってからののかな、と思いかけたところで、伯母さんが口を開く。

「言っといてほしかったな。国立のことも、アルバイトのことも」

責めてる感じではなかった。悲しんでる感じだ。ちよつと意表を突かれた。

ただ、やはり怒ってもいた。そんなときほど、伯母さんの口調は平板なものになる。その段階を超えると、父と面会したときのようになるのだ。まあ、あそこまでいったのは、あのときの一度しか見たことがないけど。

「前にも言ったわよね。受験でなくても、アルバイトなんかしなくていいのよ」

「うん」

「何かほしいものでもあるの？」

「いや。そういうんじゃないけど」

ないけど。バイトぐらいは、するべきであるような気がしたのだ。レギュラーの郷太でさえバイトをしているのに、レギュラーじゃないぼくがしないのもおかしいような気がしたのだ。そんな気は、もう、ずっとしてるのだ。何というか、役に立たないのは、いやなのだ。バイトをすれば、たとえ私立に行くことになっても、少しはその埋め合わせができる。本当に少しとはいえ、役に立つことができる。

尚人で行ったハンバーガー屋で、帰りがけにそれとなく確認もした。出入口のわきにバイト募集の貼り紙があった。高校生可、と書かれてた。週一でもオーケーとわざわざ書かれてはいなかったが、時間は応相談、と書かれてた。

「じゃあ、ウチの家計が苦しいように見える？」

「見え、ない」とそこは正直に言った。

「別に楽ではないけど、苦しくもない。もっと言えば、大地と二人で暮らしていくぐらい、どうにでもなるの。私立の大学にも行かせる。行きたければ大学院にだって行かせる。そのくらいのことは考えてる。だから大地はそんなこと考えなくていい。アルバイトなんかなくていい。させ

ない」

前回は、ダメに決まってる、という言い方だった。それが今回は、させない。はっきりした不許可。禁止だ。伯母さんの意思による、禁止。

「わたしが大学生のころは、私立の学費は国立の倍ぐらいだったの。だからわたしは奨学金注しやうがくきんをもらって国立に行った。でも今は、そこまでの差はないの」

「七割ぐらいだよ。国立は私立の」と、ネットで調べたことを言う。

「ええ。その程度のちがいのために、大地に負担をかける気はない。大地は、私立国立を問わず、行きたい大学に行けばいい。そのための努力だけを、すればいい」

こないだの電話で、父も同じことを言った。父のもとへ行けば、つまり平野大地に戻れば、伯母さんに迷惑めいわくをかけなくてすむ。そんな気持ちが少しある。少しだが、どうしても、ある。

父とは五歳さいまでしか一緒に暮らしてない。暮らした実感もない。ぼくらは実の親子、というだけだ。そうだとぼくが知ってる、というだけのこと。血のつながりなら、伯母さんどだってある。なのに、考えてしまってる。父に引きとられてもおかしくはないのだと、考えてしまってる。そしていつの間にかむしろ引きとられて当然だと思いきんでることに気づき、<sup>④</sup>はっとするのだ。

今ここで父を受け入れてしまったら。ぼくが五歳のときから十二歳のときまでの母のがんばりは何だったのかということになる。それをぼく自身が否定してしまうことになる。<sup>⑤</sup>ものわがりのよさそうな大人なら、そんなことはないよ大地くん、と言うんだろうけど、そんなことはなくない。そこは切り離はなして考えればいいんだよ大地くん、とも言うんだろうけど、切り離しては考えられない。

ただ、それでいて、伯母さんに迷惑をかけたくもない。

大地を一人にはしません、と伯母さんは父に言った。言ってくれた。うれしかったことはうれしかった。でも逆にこうも思ってしまった。やはりぼくの存在が伯母さんの結婚を阻はばんでるんじゃないのかと。この五年、ずっと阻んできたんじゃないのかと。

似たようなことを父に言われ、伯母さんは否定したが、それは、そんなことをあなたに言われたくない、という意味での否定だった。指摘してきされた内容自体は認めてしまったようなものだ。

これが三年前、中学のときだったら、ここまで考えなかっただろう。でも今は考えてしまう。中高と五年にも及ぶ伯母さんとの生活をへ経た今だからこそ、考えてしまう。考えて、混乱する。混乱し、あせる。あせり、例え⑤ば保護者面談とつびやうしで突拍とつぱ子もないことを言いたしてしまう。

そのときはそれでいいと思ってるのだ。本当に。でもたかだか十分後には、何であんなこと言ったんだろう、と思う。ぼくはだいたいじょうぶなのか？ どこかに欠陥けつかんがあるんじゃないのか？

真乃とブランコに乗った、みつば第二公園。その横を二人で通りかかる。

公園に人はいない。ブランコは止まってる。微動びどうだにしない。

伯母さんが言う。

「わたしと育子はね、何ていうか、チームなのよ。育子がああなったから、わたしが大地を引きとる。それは当たり前のことなの。でね、わたしは大地を引きとるときに決めたの。この子に経済的な苦労はかけないって」

ああ、そんなんだよな、と思う。ぼくは母を亡くしてるけど、この人だって妹を亡くしてるんだよな。初めてそんなふうと思う。理屈ではわかってたはずなのに、<sup>⑥</sup>今初めて、そう感じる。結局、自分の立場からしかものを見てないんだ、ぼくは。

いや、そんなことはないだろう、と思い、いやいや、そうだろう、と思う。また混乱する。混乱し、また突拍子もないことを言ってしまう。

「大学、全部落ちたらさ、そのときは就職するよ。働く」

伯母さんがぼくを見る。怒りよりも  X を増した目で。

「あのね、全部の大学に落ちたとわかるのは、二月か三月でしょう？ その時期からだ、きちんとしたところには就職できないの。それに、働くことはそんなに簡単でもない。大学に落ちたから働く。そういうことは、なるべくしないほうがいい。それってね、今大地が思ってるより、ずっと大事なことのなの。どうしても国立に行きたいっていうなら、浪人してもいいのよ。現に国立は浪人して入ってくる子も多いみたいだし。もちろん、私立だけを受けて全部落ちたとしても、浪人はすればいい。もう一度がんばればいい。それだけのことよ」

でもそれじゃ意味がないのだ。だったら、浪人なんかしないで初めからランクを落とした私立に行くべきだろう。

伯母さんにそう言われたことで、一つのことがはっきりと決まる。第一志望が国立であれ私立であれ、浪人だけはするまいと。

「大地」

「ん？」

「どうしても国立に行きたいわけじゃ、ないんでしょ？」

並んで歩く伯母さんを見る。伯母さんはぼくを見てない。前を見てる。

答えずにしばし待つも、伯母さんは先を言わない。疑問形ではあったが、疑問ではない。答はわかっているのだ。

前方にみつば南団地が見えてくる。

伯母さんがぼつりと言う。

「ねえ、そんなにわたしに迷惑をかけたくない？」

何故だろう。ひどく悪いことをしたような気分になる。グれるよりもっとタチが悪いことをしたような気分になる。

(小野寺史宜『ホケツ！』より)

注1 定期考査…中学校や高校で、決まった時期に行われる試験。

注2 奨学金…優秀でありながら経済的理由で学費の支払いが困難な学生に貸したり与えられたりするお金。

注3 浪人……入学試験に不合格となり、入学できないでいる人。

問一  
~~~~部 A 「意表を突かれた」・ B 「平板な」・ C 「ものわかりのよさそうな」の意味として最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 「意表を突かれた」

- ア 自分がまったく予想していないことをされた
- イ 自分にとって不都合なことを指摘された
- ウ 自分のもろく弱い部分を攻められた
- エ 自分の気持ちを大きく動かされた

B 「平板な」

- ア 単調で変化の少ない
- イ 力強く荒々しい
- ウ しっとり落ち着いた
- エ 冷たく思いやりのない

C 「ものわかりのよさそうな」

- ア 頭のよさそうな
- イ 話の上手そうな
- ウ 聞き分けのよさそうな
- エ 心のやさしそうな

問二
~~~~部①「伯母さんと二人、歩いて帰ることになった」とありますが、この時の「ぼく」の心情が分かる行動を、本文から連続する二文でぬき出し、初めと終わりの六字を答えなさい。

問三  
~~~~部②「バイトぐらいは、するべきであるような気がした」とありますが、「ぼく」がバイトをする気になっているのはなぜですか。説明しなさい。

問四
~~~~部③「同じこと」の内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 大学受験をひかえている時期にアルバイトなどさせられないということ。
- イ 私立大学と国立大学の授業料は今あまり差がなくなってきたこと。
- ウ お金のは気にせず希望の大学へ行く努力だけすればよいということ。
- エ 「ぼく」が行きたい大学へ行き、やりたい勉強をするようにということ。

問五

——部④「はっとする」とありますが、この時の「ぼく」は何に対して「はっと」したのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 伯母が、自分のことを最優先に考えてくれていたこと。
- イ 自分が、大人の都合で振り回されていること。
- ウ 自分が、割り切って考えられる大人になっていたこと。
- エ 難しい問題に、自分の考えがまとまらないこと。
- オ 伯母が、人を裏切るようなことを考えていたこと。

問六

——部⑤「保護者面談で突拍子もないことを言いだしてしまう」とありますが、「ぼく」が保護者面談で言った「突拍子もないこと」は何だと考えられますか。簡潔に答えなさい。

問七

——部⑥「今初めて、そう感じる」とありますが、この時の「ぼく」の心情として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア これまで想像もしたことがなかった「母」と「伯母さん」の心理的なつながりを知り、あれこれと納得する気持ち。
- イ 姉妹であることは分かっていたいながらも、「伯母さん」の思いを本当は理解できていなかったのだと悔やむ気持ち。
- ウ 自分にとってはずっと偉大な保護者だった「伯母さん」にも弱い部分があることを知って同情する気持ち。
- エ 自分と「伯母さん」とのつながりは「母」が居なくなっても続くものだと分かり、素直に喜ぶ気持ち。
- オ 「伯母さん」にとっても「ぼく」の「母」を失うことは大きなことだったと改めて悲しみにくれる気持ち。

問八

☒に入る言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 憎しみ
- イ 悲しみ
- ウ 喜び
- エ あわれみ
- オ さげすみ

問九 この文章全体を説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア お互いに相手のことを思う「ぼく」と「伯母さん」の気持ちのすれ違いを、両者の視点から表現している。  
イ 「そこは」や「かけたくもない」など「は」や「も」をうまく使って、描かれていないことまでも想像させている。  
ウ 登場人物それぞれの心情は細かく説明されないが、身ぶりや表情、口調の変化などにより心情を描き出している。  
エ 「微動だにしない」「ブランコ」などの風景の描写には、解決策の無い行き詰まった現状が投影されている。  
オ 主人公「ぼく」の視点から描かれており、「ぼく」の内面が会話文だけでなくそれ以外でも説明されている。

三、——部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 人のために働く姿にカンシンした。
- ② 自転車は二台がヘイコウして走ってはいけない。
- ③ 暑いので入り口の戸をカイホウする。
- ④ 運動会の百メートルキョウソウに出場する。

四、——部のカタカナを漢字で書いたとき、適切なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① そうじの際には机をきちんとトトノえること。(ア 調える イ 整える)
- ② この問題に対してテキセイな方法で対処する。(ア 適正 イ 適性)
- ③ 列車の運行がゲンジヨウに回復した。(ア 現状 イ 原状)
- ④ 彼は王朝のセイトウ後継者である。(ア 正当 イ 正統)

五、AさんとBさんが電話で会話をしています。会話中の——部①～⑤の敬語表現が正しければ「○」を、まちがっていれば正しい敬語表現を一語で書きなさい。

A 「もしもし、Bさんのお宅でしょうか。」

B 「はい、そうです。」

A 「私はAと申します。①中学のときにB先生にお世話になった者ですが、先生はご在宅でしょうか。」

B 「いま父は家にいらっしやいませんが、もうすぐ帰ってまいります。②」

A 「では、先日の約束の通り、明日九時にお宅に③うかがうとお伝えください。」

B 「承知しました。Aさんが明日④うかがうと、伝えます。」

A 「先生に⑤お目にかかるのを楽しみにしております。それでは、失礼します。」

B 「失礼します。」

解答用紙 (一)

一

問一  
あ   
い   
う   
え

問二  
  
  
  
  
s  
  
  
  
  
から。

問三

問四

問五  
A   
B

問六

問七  
ア   
イ   
ウ   
エ   
オ

問八  
第一段落   
第二段落   
第三段落

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 総点   |  |
| 評点   |  |

解答用紙 (二)

二

問一

A

B

C

問二

初め

終わり

問三

|                      |                      |                      |
|----------------------|----------------------|----------------------|
| <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |
|----------------------|----------------------|----------------------|

問四

問五

問六

|                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |
|----------------------|----------------------|

問七

問八

問九

三

①

②

③

④

四

①

②

③

④

五

①

②

③

④

⑤

|      |                      |
|------|----------------------|
| 受験番号 | <input type="text"/> |
| 評点   | <input type="text"/> |